

岡山県の地震

令和3年(2021年)1月

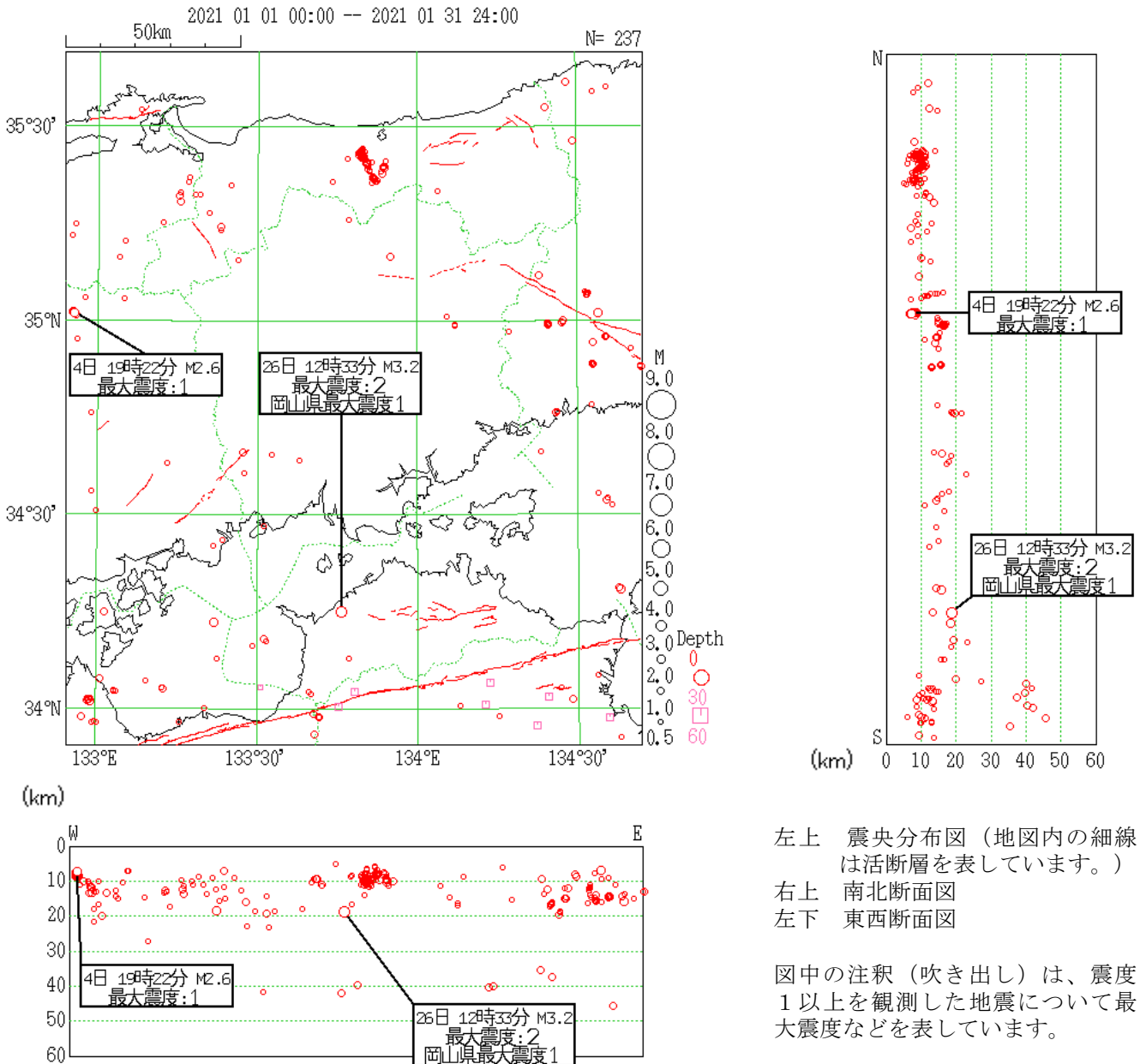
目次

○岡山県及びその周辺の地震活動（1月）	
震央分布図及び断面図	… 1
概況	… 1
岡山県において震度1以上を観測した地震の表	… 2
岡山県において震度1以上を観測した地震の震度分布図	… 2, 3
○地震防災メモ No.181	
地震防災の備えについて	… 4

- 「岡山県の地震」は、月1回発行し、岡山県及びその周辺の地震活動をお知らせするとともに、適宜、社会的関心の高い地震について解説します。また、「地震防災メモ」により地震、津波に対する防災知識の普及等に努め、皆様のお役に立つことを目的としています。
- この資料の震源要素、震度データは、再調査されたあと修正されることがあります。
- 本資料は、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国土地理院、国立研究開発法人海洋研究開発機構、公益財団法人地震予知総合研究振興会、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所及び気象庁のデータを用いて作成しています。また、2016年熊本地震合同観測グループのオンライン臨時観測点（河原、熊野座）、米国大学間地震学研究連合（IRIS）の観測点（台北、玉峰、寧安橋、玉里、台東）のデータを用いて作成しています。

岡山県及びその周辺の地震活動(1月)

震央分布図及び断面図



左上 震央分布図（地図内の細線は活断層を表しています。）
右上 南北断面図
左下 東西断面図

図中の注釈（吹き出し）は、震度1以上を観測した地震について最大震度などを表しています。

概況

1月の概況

- ・上図の範囲内で1月に震度1以上の揺れが観測された地震は2回（前月：0回）でした。
- ・岡山県で震度1以上の揺れが観測された地震は1月中に2回（前月：0回）あり、そのうち震央が上図の範囲内での地震は1回、範囲外での地震は1回でした。

岡山県における震度1以上を観測した地震の表(1月)

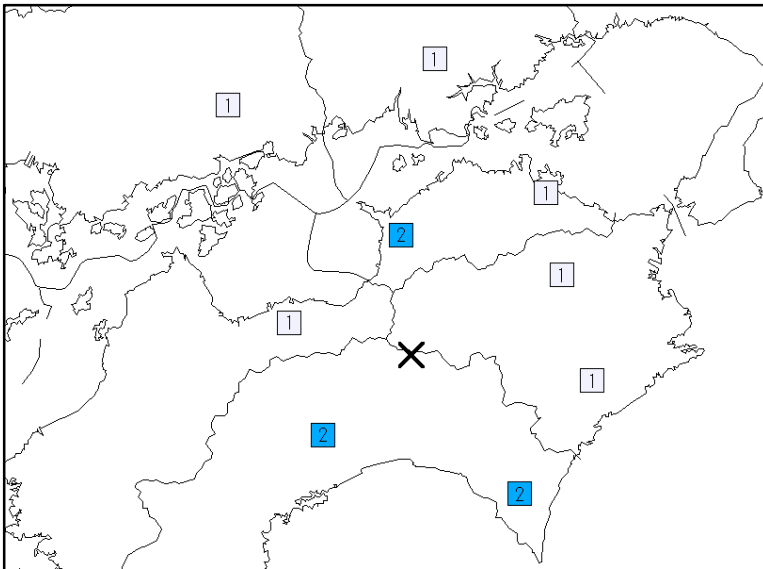
2021年01月07日04時17分 高知県中部	33° 49.6' N 133° 45.0' E 39km M3.8
----- 地点震度 -----	
岡山県 震度 1: 倉敷市下津井 *	

2021年01月26日12時33分 香川県西部	34° 15.0' N 133° 45.7' E 19km M3.2
----- 地点震度 -----	
岡山県 震度 1: 玉野市宇野 *	

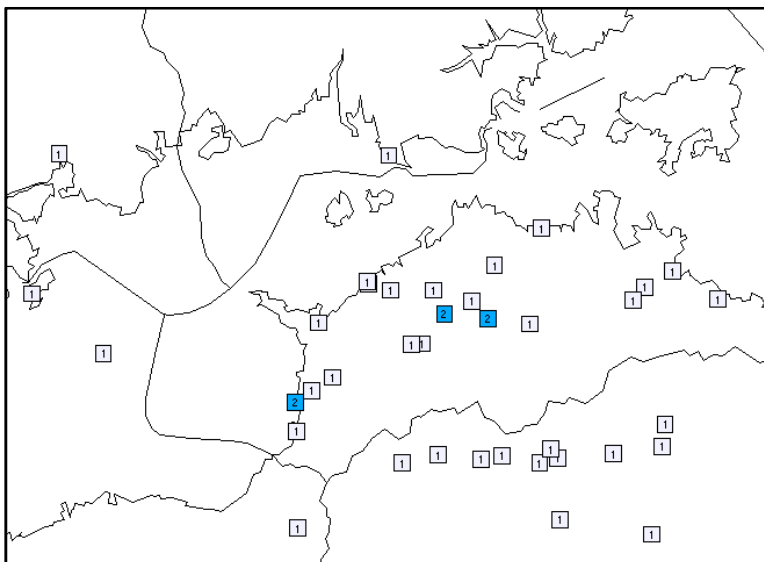
- 注) 1 内容は暫定値であり、後日再調査のうえ、修正されることがあります。
 なお、地震データの確定値は『気象庁地震・火山月報(カタログ編)』に掲載されます。
- 2 地名の後に*印を付したものは、岡山県又は防災科学技術研究所の震度観測点です。
 なお、震度は気象庁震度階級表によるものです。

岡山県における震度1以上を観測した地震の震度分布図(1月)

2021年01月07日04時17分 高知県中部の地震
 各地域の震度分布



岡山県及び周辺観測点の震度分布



×は震央

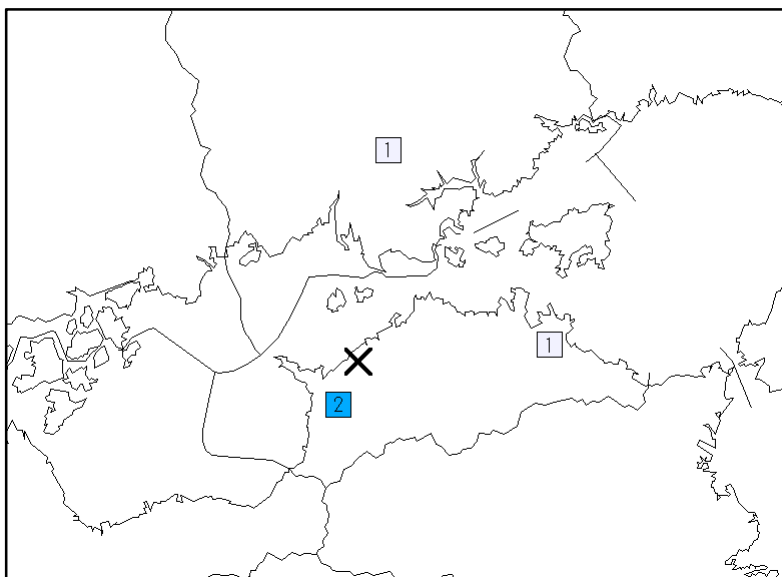
凡例

7	震度7
6+	震度6強
6-	震度6弱
5+	震度5強
5-	震度5弱
4	震度4
3	震度3
2	震度2
1	震度1

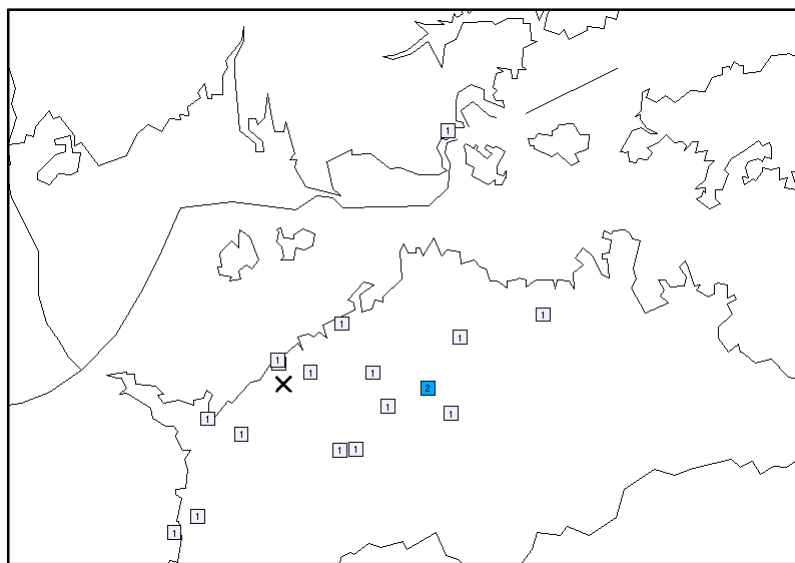
岡山県における震度1以上を観測した地震の震度分布図(1月:続き)

2021年01月26日12時33分 香川県西部の地震

各地域の震度分布



岡山県及び周辺観測点の震度分布



×は震央

凡例

7	震度7
6+	震度6強
6-	震度6弱
5+	震度5強
5-	震度5弱
4	震度4
3	震度3
2	震度2
1	震度1

地震防災の備えについて

防災の備えとしては、①予防のために行うもの、②応急対策のためのも、③復旧・復興のために行うもの……があります。一般的には②の応急対策のための備えに意識が集中し易いと考えられますが、広域に甚大な被害をもたらして影響が長期化する地震や津波による災害に対しては、②だけでなく①や③を含めて、可能な備えをしっかりと行っておくことが大切です。

また、個人や行政機関がバラバラに備えを進めるのではなく、個人・地域コミュニティ・行政機関などの連携や分担を考えながら、効果的なものとなるよう取組むことも重要です。

地震災害はある日突然発生するため、できることはできるうちに、日頃の備えとしてきちんと実行しておくことがとても大切です。

地震の発生に備えよう



自らの命、大切な人の命を守るために、今から準備しておきましょう

住んで生活している地域、学校や職場のある場所などの危険性については、各自治体が公開しているハザードマップ(自治体ホームページに掲載され、避難場所や避難所等も掲載されている例が多い)を参照することが可能です。

強い揺れに対する備えとしては家屋の耐震性確保がありますが、足りているかどうかを確かめる必要があります。昭和56年以前の耐震基準で建てられた家屋の耐震診断・改修については、県や市町村が補助をしている例がありますので、相談してから必要な改修をするのが良いかもしれません。また、強い揺れに対しては、物が落ちたり、倒れたり、ぶつかってこないよう、居間や寝室などを整理したり、家具などを耐震固定したりしておくことも有効です。

多くの自治体では、非常持出品や避難生活で必要となる備蓄品のリストをホームページに掲載しています。また、防災の備えとして確認すべき事項のリストを掲載している自治体、防災ハンドブックや防災マニュアルを作成・掲載している自治体もあります。我が家／わが地域の防災について気になった時、使いやすいものを入手して、点検や検討に活用されてはいかがでしょうか。